

# 聖獣「麒麟」の目指す先

## —酒税改定後の戦い方①—



「一番搾り」での新提案「やわらか仕立て」は、小麦麦芽由来のやわらかなおいしさが受け入れ

「ビールでの新たな発見を増やしつつ、ビール類トータルの裾野を広げることがキリンビールの歩むべき道」と、マーケティング部ビール類カテゴリー戦略担当の間木研吾主幹(写真)は言い切る。10月に実施された2回目の酒税改定後の動きについては、「ほぼ想定通り」とし、昨年10月のコストアップ値上げ、今10月の酒税増減税と、2年連続

で価格改定が行われたことによる数字のブレを示しながらも、「減税されたビールは『一番搾り』や『わらか仕立て』の新発売(10月10日)も上乗せして増勢が続いている。1回目の酒税改定による値上げが逆風となっていた新ジャンルも、インフレで強まる生活防衛を背景に、今後底堅く需要は回復するとみている」と近況を語る。

価格面で追い風が吹いているビールは、おいしさはもちろん、新しい価値や魅力への期待に応えた提案が奏功している。「一番搾り」での新提案「やわらか仕立て」は、小麦麦芽由来のやわらかなおいしさが受け入れ



「一番搾り」でブランドを更に強くするとともに

られ、発売当初から好評だ。「一番搾り」ブランドへの追い風も強めている。伝統の「キリンラガービール」も、目だったプロモーションを行わずに堅調な推移をみせている。こうした基盤強化とともに進められているのが、他のブルワリーと手と手を取り合って拡大を目指しているクラフトビール事業だ。間木氏はキリンのクラフトビールへの取り組みについて、「市場創造・拡大のチャンスが多いクラフトビールは今も堅調だが、近い将来、例えばビ

ル類の4%を占めるような、より大きな成長を実現させるためには、エントリーを含め選択肢を増やし、より知ってもらって、もつと体験してもらおうことが最優先される」とする。キーワードは「おいしさの新たな発見」。キリンとしては、その間口拡大を優先して「スプリングバレー」ブランドを展開。この10月には、新たに「香りの提案」として「スプリングバレー」ジャパンエール(香)を家庭用・業務用両市場に向けて投入した。「急速に進んでいる生活様式や嗜好の変化は、コロナ禍を経て加速している。だからこそ、クラフトビールの将来にはチャンスがたくさんある」と

間木氏。「家庭用でも業務用でも多くのお客様に求められ続けている『一番搾り』ブランドを更に強くするとともに

ビール類酒税一本化に向けた2回目の酒税改定が実施された10月。ビール各社は減税が続くビールへの傾注策を継続しているが、諸情勢から見逃せないのがエコノミーカテゴリーの動向だ。今後の消費構造の行方は、26年の酒税改定完了に向けたキリンビールの方向性を探るシリーズ第一弾。

(石母田健)

# ビール類の裾野を広げる

「スプリングバレー」ブランドでクラフトビールの間口を広げる。この両輪でビールの魅力強化と新たな発見の積み重ねを増やす」構えだ。その一方で間木氏は、エコノミーカテゴリー(新ジャンル・発泡酒)の重要性も示唆する。「お客様にとつて、お値打ちでおいしいものを求めることは、これからも不変。エコノミーカテゴリーは、そうした需要に応える重要なカテゴリー。足固めをしておかないと、他のカテゴリーへの流出も加速してしまう」と。



「26年10月に酒税一本化が完了しても、(価格差が残ると思われる)エコノミーカテゴリーは依然大きな規模を占める」と予測する。「キリンは機能系も含めこのカテゴリーで強いブランドを複数所有し

現在、缶製品ではエコノミーカテゴリーが6割以上を占めているが、間木氏は、「26年10月に酒税一本化が完了しても、(価格差が残ると思われる)エコノミーカテゴリーは依然大きな規模を占める」と予測する。「キリンは機能系も含めこのカテゴリーで強いブランドを複数所有し

ているだけに責任も大きい。ジャンルを超えたおいしさを誇る『本麒麟』、仮需の規模でも改めて底力を感じた『のごし生』、機能系で根強い人気の『淡麗グリーンラベル』『同プラチナダブル』などでエコノミーカテゴリーの盤石化を図り、ビール類全体の市場活性化を図る」意向だ。

他方、回復が続いている業務市場については、「まだ数量的にはコロナ前の水準には届いていない。今後の感覚としては、現状+αで緩やかな回復が続くと想定している。ただ、家庭以上に料理が主役の外食では、より一段とビールの質の向上が求められており、そこで良い体験をすることが家庭での飲用につながるので、外食におけるブランドの重要性はこれまで以上に高まっていく。家庭用市場に選ばれるブランドであり続けることが不可欠」との見解を示す。

諸物価高騰が続く、実質賃金が目減りしている昨今。減税が続くビールも、増税が続く新ジャンル・発泡酒も、詰まるところ価格に見合った価値と魅力が必要振興の鍵。その実現に向けたキリンビールの動向を見守りたい。